



いずみさの昔と今 第245回

「卑弥呼の時代と泉州」

大阪湾に面した泉佐野市は、地の利を生かした漁業が盛んです。漁港では水揚げされたガツチョやワタリガニなどの特産品をはじめ、魚介類のセリが活況を呈しています。こうした当地での漁業活動や海産物の利用は、はるかに昔までさかのぼります。今回の春季特別展は、「卑弥呼の時代と泉州」というテーマで展示を行います。展示では堺市下田遺跡をモデルケースに卑弥呼の時代を紹介し、また特徴的な地域色を示す泉佐野の遺跡についても、かかわりを考えていきます。

卑弥呼の時代は、考古学の時代でいえば、ちょうど弥生時代から古墳時代へ移り変わる頃です。この時代には、それまでの地域社会中心の段階から、古墳の誕生をはじめ、さまざまな社会的変化があつて、より広域な政治社会が作られていきました。なかでも近畿地方は、大和をはじめとして先進的な役割を果たした地域です。泉州はその中心部からはずれませんが、やはり同じように弥生から古墳へと

社会が変わっていきました。

下田遺跡は泉州地域の中でも最大の拠点集落といってもよいほどの大きさで、2世紀後半から4世紀にかけて営まれた遺跡です。このため出土した遺物の量も多く、大溝などの遺構から土器、木製品などが大量に出土しました。その内容は一般集落と同じものもありますが、地方の有力豪族の生活の一端がわかる特別なものもありました。弥生後期から古墳前期まで継続するため、遺物を通じてその間の社会の変容がよくわかる内容です。また住居などの遺構についても同様で、生活様式の変化がうかがえるものでした。

下田遺跡のすぐ近くには、日本でも最大級の古墳群のひとつである百舌鳥古墳群がありまます。このため、4世紀末から始まる古墳群の成立には下田遺跡集落の人々が深く関わった可能性もあり、その意味でも重要な立場にあつた遺跡と考えられます。

下田遺跡では、そのほかの注目される遺物として、弥生後期

の銅鐸が出土しました。この銅鐸は今では変色していますが、出土した当時は埋められた時と同じ金属色を保っていました。近くには下田遺跡の前身の可能性がある弥生時代の大集落、四ツ池遺跡があり、銅鐸との関連が考えられます。特別展ではこの下田銅鐸もあわせて展示します。



▶古墳時代の土器や木製品が大量に出土した大溝

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合はその翌日、日曜日の場合はその翌々日）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

春季特別展

卑弥呼の時代と泉州 ～拠点集落「下田遺跡」を探る～

日時
5月14日(土)～7月10日(日)
午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

場所・問合先 レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
※入館無料



特別展講演会

第1回「卑弥呼の時代と下田遺跡」

地方の拠点集落の成長から、弥生から古墳への移り変わりを探ります。
開催日 5月21日(土)

第2回「古墳のはじまり」

墓制の変化を中心に、弥生社会と古墳社会の違いを考えます。
開催日 6月18日(土)

いずれも
時間 午後1時30分～3時（受付：午後1時～）
定員 60人（先着順）
講師 西村 歩（レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの副館長）
場所・申込・問合先 5月6日(金)以降にレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのへ
※受講無料